

## 2023年度 第4回災害支援委員会議事録

日時 : 令和6年3月7日(木) 19時30分～

開催方法 : オンライン

参加者 : 11名(長坂・林・福永・篠原・高橋・番場・小淵・小須田・本多・永尾・中島)

### 報告事項

#### 1. 日本協会関連

○能登半島地震への災害支援員の登録:長坂さん

登録の要件が細かいため、広く応募している感じではない。

(災害対策委員で活動経験がある/金沢に現地集合/交通費は自己負担など)

2月で募集締切り。長坂さん・林さんの2名は登録済み。

東日本の時には派遣しているが、具体的な派遣要請があるかどうかは決まっていない。

ブロック会議でも具体的な話は出ていない。支部長MLにも今のところ連絡はない。

#### 2. DWAT 関連

○能登半島地震に際しての災害派遣支援の活動報告:長坂さん・篠原さん・高橋さん

長坂さん・篠原さん・高橋さんの3人が群馬 DWAT として現地に派遣され、活動。

長坂さん:1/26～28・2/22～24・3/22～25(予定)

篠原さん:2/9～11・3/16～18(予定)

高橋さん:2/21～25

派遣先は金沢の1.5次避難所(石川スポーツセンター内。スポーツセンターの一部は運営

されており、一部が避難所になっている。)

1.5次避難所は、二次避難先を決めて移るまで短期間滞在する場所。長期に滞在する想定

ではないが、高齢者・介護度が高い人が多く、二次避難所に移れる人は限られている。登

の介護施設が被災し、ほぼ寝たきりの介護殿高い方が避難している。

このような事情から、1.5次避難所にとどまっている方が非常に多い。

1・2月に派遣された時は、避難所内をメインホール・サブホール・マルチスペースの3

エリアに分けていた。

DWATが関わるのはメインホール。サブホールはDPAT、マルチスペースはケアマネや

看護師のチームが担当していた。

全国から31都道府県のDWATが避難所に入っている。

全国のDWATがチームとして活動するのは初めて。

群馬DWATの役割は、地域リーダー。

ラウンドなどの直接的な活動には携わず、石川DWATをサポートしながら各県から集

まったDWATチームのとりまとめを行う。

他職種のチームとの調整なども行う。

人数も多く、スペースも狭かった。

どこにいて、何をしたらいいのか、立ち位置が非常に難しい。

状況・フェーズが変わるので、ニーズも動きも変わる。

引き継ぎで前のチームの活動を理解していないと、動きがとりにくい。  
変わっていく状況に合わせていく必要があった。  
リーダー県である群馬がしっかりしないといけない。そこが大変だった。

DWAT・DPATなどがそれぞれの役割で得た情報を、石川チームがとりまとめている。  
群馬 DWAT は、リーダーをサポートする役割。

DMAT、DHEAT、保健師、介護士など他のチームがどんなことをしているか見ながら  
アセスメントを行う。普段行っているネットワーク業務と同じ。  
アセスメントや調整を色々な人にやってもらえ得るよう指示を出していた。

2月末に石川 DWAT が金沢から輪島や七尾に移動。長く活動していた大阪 DWAT が主  
体となり、群馬は大阪をサポートした。

石川 DWAT が行っていた「なんでも相談」・入退所の受付と配置などの仕事も増えた。  
避難者に直接関わる活動ではなく、ロジスティクス機能・裏方の仕事をしていた。

長野に派遣された時と比べると、福祉の支援チームが周りのチームから受け入れられて  
いる、役割を求められている印象があった。

他の職種から DWAT に連携を取りにくるなど、DWAT が有能な機能を持つチームとし  
て認知された。

避難所では介護士チームが 2 交代制でシフトを組んで介護をしていた。

介護士が寝泊まりするところがなく、最初は近所の健康ランドで休憩をしていた。

介護士チームから DWAT に環境調整の依頼があり、避難所内に仮眠スペースを作り、環  
境整備を行った。

介護士チームは避難所に寝泊まりして活動。個人で来ている介護士の人もいて全国から  
の合同チームだが、引き継ぎを密にして、大変な業務だが楽しそうに活動していた。

本来 1.5 次避難所は閉鎖している予定だったが、いつ閉鎖できるか目処は立っていない。

1 月末から 2 月にかけて、1.5 次避難所の人数は減っている。

産業センターの避難所を閉鎖するため、3/7 から 3 日間でスポーツセンターに移動する。

マルチホールとサブホールが統合されるなど、避難所を縮小している。閉鎖に向けた動  
きは進んでいる。

七尾市から来ている人は 3 月中に水道が復旧すると自宅に戻れる。

GW 前には 1.5 次避難所を閉めたいと思っているのではないかと。

### 3. 各事業の執行について

○ソーシャルワーカー 3 団体の災害支援交流会：番場さんより

2～3 月でもう一度集まる予定だったが連絡はなく、本年度の実施はなし。

○MHSW 首都圏災害ネット研修：小淵さんより

2/24 関東甲信越合同で災害ネット研修を開催。

参加者：現地在 30 名 オンラインが 40 名 計 70～80 名くらい

内容：長野・石川での DWAT の活動報告（篠原さんが講師として 90 分）  
後半グループワーク

今まで東京・神奈川・千葉が中心で行っていたが、今年度、長野と新潟が加わり、  
10 都県合同で行った。

日本協会の助成金申請は茨城県が担当。アンケート結果はこれから出てくる。

群馬の参加人数は 3 人と少なかった。石川の派遣日程と重なった。チラシの作成など、告知・募集が遅かった。

ハイブリッドで参加者が増えた。

他県から、群馬 DWAT は高く評価されている。経験値を踏んでいるとみられている。

群馬 DWAT は、他県と比べて MHSW の人数が多い。

- 士業団体による「被災者等相談支援に関する協定」について：番場さんより招集がかかっている。来年度に持ち越し。

#### 4. 検討事項

- SW 連盟・災害担当者会議に関して（当委員会との位置付けなど）

今年度の第 1 回を 10/31 に行き、以来、連絡がない。

連盟として調整をしたが、集まれている。

連盟の動きが滞っている。

- DWAT での派遣活動と日本協会での派遣活動の調整について

長坂さんは日本協会から養成があれば、日本協会の派遣を優先する考え。

募集は締め切っているが、実際に活動が始まればもう一度募集があるのではないかと。

避難者の支援ではなく、マンパワーが落ちている福祉事業所等に、職員のバックアップとして行くイメージ。DWAT とは違う。

- 2023 年度の活動報告・2024 年度の活動計画について

報告書にまとめて理事会に提出。

#### 6. その他

- LINE ワークスについて

県士会として LINE ワークスを導入することが理事会で決まった。

目的は、それぞれの委員会等で使っている情報ツールが異なるので、統一する。

今後、全ての県士会会員を対象とできれば、情報発信を郵便ではなく LINE ワークスで行うことも想定している。

LINE と LINE ワークスの 2 つのアプリを使う。

委員会毎にグループができる。災害支援委員会も LINE ワークスに移行していく。

会員が LINE ワークスに登録すると、所属している委員会に振り分けられる。

総会で議案書が承認されてから、理事以外の会員の登録をしていく予定。

- 委員体制について

- ・来年度の委員長は、引き続き長坂さんに決定。

- ・本多さん 初めての参加。高橋さんから委員を引き継ぎ、次回以降委員として参加。

- ・高橋さん 本日が最後の委員会参加。長い間お疲れ様でした。

次回 : 6月20日(木) オンライン 19:30~

2024年度 第1回災害支援委員会 : 6月24日(月)